

トレーサビリティは万能か？ ～ いま再びトレーサビリティに注目！（後編）

これまで2号にわたりトレーサビリティの重要性、実現にあたって注意すべき点、バーコード／2次元コードのメリットについて話を進めてきました。今号は3号連続のまとめとして「トレーサビリティは万能薬か？」と題し、トレーサビリティが直面する現実的な問題について解説します。



省スペースで効率の良い
情報収集をサポート

トレーサビリティは万能か？

トレーサビリティの意義が認められ、重要性が認識されるにつれて、トレーサビリティ自体の認知度はこれまでに比べて飛躍的に高くなっています。重要性が認知され、トレーサビリティが普及していくことは、企業としてはリスク管理が強化されることであり、消費者にとっては安全が増すのですから、歓迎すべきことなのは間違いありません。しかし、その一方でトレーサビリティがある意味で「神格化」されてしまっていて、「とにかくにもトレーサビリティを導入するのだ」とか、「トレーサビリティさえ実現すればすべて上手く行くのだ」といった極端な誤解がされる可能性も増えてきます。

いうまでもなくトレーサビリティ自体は、安全性確保のために非常に効果的な手段です。しかし、トレーサビリティがあらゆるメーカー、あらゆる産業のリスクに対する万能薬のように考えられてしまうと、それは間違った方向に進む原因となりかねません。トレーサビリティの実現を大義名分として前面に掲げて進んでしまったとき、あちらこちらに支障・不合理を生むシステムを構築してしまうことになります。

トレーサビリティは導入すればすべてことが上手く運ぶ「万能薬」ではありません。すべてが上手くいくようにあらかじめ計画されて作られるものなのです。

トレーサビリティ実現に 立ちちはだかる障壁

原材料から消費者までを1本に繋ぐ完全なトレーサビリティを実現するためには、原材料、部品、加工、物流・流通といった、その商品に携わるすべての会社や生産者—— サプライヤーとの連携が必要となります。それぞれの部分を担う企業だけで帰結してしまうシステムだけでは成しえないのです。そして各サプライヤーとの連携という要件がトレーサビリティの実現に大きな足枷となっています。

トレーサビリティを取り巻く環境は認知度が高くなった現在でも、トレーサビリティの概念や規約に関して統一した基準があるとは言えない状況にあります。トレーサビリティとひとりで言っても、考え方や捉え方、必要な情報は各企業・担当者によって違いやズレが出てしまうのです。

前号で企業内でのリスクマネジメントのシステムは、現場にもメリットをもたらす一石

トレーサビリティで不可欠な情報収集。省スペースでの情報収集を可能にするタッチパネル型コンピューターとハンドスキャナーの組み合わせが数多くの現場で使用されています。

（写真：タッチパネル端末 TeamPad7500W
＋ハンドスキャナー THIR-6000）

二鳥のシステムでなければならないとお話ししました。裏を返せば、現場にも経営サイドにもメリットをもたらすシステムさえ構築すれば、一企業という限定下でのトレーサビリティは実現します。しかし原材料や部品メーカー（さらに付け加えるなら部品の原材料となるものまで）から物流・流通～消費者までを繋ごうとすると、企業ごとの価値観や認識のズレが障害になってしまうのです。

なによりリスクマネジメントのシステムは損失の拡大を防止することはできても、直接の利益は生み出しません。極端な言い方をすれば、利益にもつながらない不必要な作業を他の会社のためにするわけなどないので、トレーサビリティはそこで途切れてしまうことになるのです。

● サプライチェーンの中でのトレーサビリティに対する認識の違い



トレーサビリティに対する意識はユーザーにより近い流通・最終加工を担うメーカーで高く、部品加工や原材料ベンダーなどではすぐに価格転嫁できないため、設備投資によるコスト増への危機感・警戒感が強い。企業間をまたぐトレーサビリティ実現は、各企業に相応のメリットをもたらすシステムの構築が必須となる。

万能薬としての バーコード／2次元コード

このようにトレーサビリティの実現には企業間の問題という大きな障壁があります。この壁を取り払うことは現実にはとても難しいことですが、トレーサビリティ実現のために壁を低くすることはできます。その手段としてもっとも手軽なものがバーコードや2次元コードを使ったシステムなのです。

リスクマネジメントのシステムは直接の利益を産まないとお話ししました。そのようなシステムに設備投資を行い、情報を管理することが難しいのは当然です。利益を産むことが至上命題の企業にとって致命的な弱点のように見えますが、バーコード／2次元コードを使えば、企業ごとに違う情報管理システムでも情報の受け渡しがスムーズになり、また各ポイントで必要な情報を取り出すことができるようになります。原材料の生産者には生産管理によるメリットをもたらす、

流通を請け負う企業には物流管理によるメリットをもたらす。しかも導入コストは低く、各企業が共通のインフラでデータの受け渡しを行える。バーコードや2次元コードならば、データ収集を行うすべての場所にメリットをもたらすシステムの構築が可能になるのです。

農林水産省の「食品トレーサビリティガイドライン」の中にトレーサビリティの定義について言及した箇所があります。ガイドラインによると、「トレーサビリティシステムは、あくまで食品とその情報の追跡、遡及のためのシステムであり、製造工程における安全性(衛生性)管理や品質管理、工程管理を直接的に行うものではない。」とされています。

トレーサビリティシステムの構築段階でリスクマネジメントだけを主眼に置いていると、構築したシステムを現場に導入した途端に「運用のための運用」が発生してしまうことは前号までにお話した通りです。また、リスクマネジメントだけで投資効果を捉え

てしまうと、必要性は理解していても導入には及び腰になってもおかしくありません。

このようなことを考慮すると、それぞれのポイントで費用対効果の見出せるシステムにすることで導入のハードルを下げ、そこから生み出される実績を連鎖させることで、副産物のようなかたちで完全なトレーサビリティを構築する。このような捉え方でトレーサビリティを考えるとバーコードや2次元コードほど便利なものはないのです。

今後、トレーサビリティの重要性は増すことはあっても低くなることはありません。企業にとってはリスクをコントロールし、消費者に安全を提供する手段として、社会的な信用確保のためにもトレーサビリティは必要不可欠になっていくと思われます。トレーサビリティの実現が必須なのであれば、バーコードや2次元コードこそいたるところでメリットをもたらすことができる『万能薬』と言えるのかも知れません。

● 展示会情報

第2回 名古屋自動認識展示会 & セミナー 開催(入場無料)

5月31日、6月1日の2日間にわたって名古屋市中小企業振興会館にて『第2回名古屋自動認識展示会 & セミナー』が開催されます。当社ブースではダイレクトマーケティング関連機器を中心に、注目のRSS/合成シンボル対応機器など、最新のラインアップを展示します。

日程：2007年5月31日(木)・6月1日(金)

場所：名古屋市中小企業振興会館(吹上ホール)
第1ファッション展示場

〒464-0856 名古屋市千種区吹上2-6-3 TEL. 052-735-2111

交通：名古屋駅 から地下鉄桜通線(野並行) 吹上駅下車 5番出口より徒歩5分

いろいろQ&A

Q. 小さいこと・多くの情報を入れられる以外の2次元コードの特徴は？

A. 2次元コードには、英数字のほか漢字やひらがなも入れることができます。そのため、情報入力への補助に使用されていたり(2次元コードを読み取ることによって事前情報の再入力が簡単です)、機械や製造ラインの設定変更に使用されていたりしています。設定の変更は変更内容を事前に2次元コード化しておくことによって、設定変更の際に2次元コードを読むだけで変更が済み、作業が簡便化されるというものです。

● 合併のお知らせ

さる5月1日にグループ会社 株式会社東研アイ・ディーシステムが当社に合併いたしました。

これまでお取引戴いておりましたラベル、インクリボンなど東研アイ・ディーシステムの取扱商品は、新設の“サプライ営業部”が業務を引き継いでおります。

今後ともご愛顧のほど、よろしくお願い申し上げます。

株式会社 東 研 サプライ営業部
TEL:03-3343-5651

東京都新宿区西新宿2-7-1 新宿第一生命ビル

次号予告

6月号は...

『自動認識機器 最新の動向』
です。

Flags 6月号は6月5日発行です。

TOHKEN

株式会社 東 研

<http://www.tohken.co.jp>

本社 営業部	東京都新宿区西新宿2-7-1 新宿第一生命ビル
	Tel 03 (5325) 4311~3 Fax 03 (5325) 4318
名古屋営業所	Tel 052 (565) 9091 Fax 052 (565) 9094
大阪営業所	Tel 06 (6353) 5476 Fax 06 (6353) 6125
福岡営業所	Tel 092 (441) 3638 Fax 092 (441) 3639
日立営業所	Tel 029 (276) 9555 Fax 029 (276) 9556

Flags/フラグス 2007年5月号 Vol.25 2007年5月7日発行

編集・発行 株式会社 東 研 〒163-0710 東京都新宿区西新宿2-7-1 新宿第一生命ビル
Tel 03 (5325) 4322 (編集事務局)

本誌に掲載の記事・写真・図版などは著作権法によって保護されており、無断で転用・転載・複製することはできません。